



「聞き書き」とは

皆さん、「聞き書き」という言葉を
 をご存じでしょうか。耳慣れない言葉
 だとお思いの方は多いのではない
 でしょうか。

「聞き書き」とは「お年寄りの話を聞き、その話を、その人の喋り言葉で書き、一冊の本にして差し上げる活動」をいいます。「お年寄りが一人亡くなると、地域の図書館がひとつ消える」ともいわれています。それだけ、人生の先輩のお話は貴重なものです。

市立砺波総合病院では、患者さん

に寄り添う看護のひとつとして、「ひとくくりの患者」としてではなく、それぞれの人生を歩む人として見つめるために、「聞き書き」を行っています。

そして、「聞き書き」とはお年寄りの話を聞いて、それを記録し、後世に残すことです。それは必ずしも特別なことでなくていいのです。長い人生を生き過ぎて、「楽しかったこと」、「嬉しかったこと」、「辛かったこと」、「悲しかったこと」を思い

出して話してもらえれば、それだけでも、その方の立派な「生きてきた証」になります。また、忘れていた記憶がよみがえり、脳が動き出します。さらに、こちらが学ぼうとすることで、お年寄りがまだ必要とされていると実感し、その方の尊厳を高めることにつながります。

当院での「聞き書き」の

実際について

当院における「聞き書き

」活動は、今春から入院・外来患者さんを対象に、病院ボランティアの方と看護部で取り組んでいます。当院ではお年寄りに限定せず、様々な世代の方を対象にしています。現在は8人の患者さんから、「聞き書き」の依頼をいただき、6冊の冊子にまとめたところです。患者さんやご家族からは、「自分の話を聞いてもらうだけで、元気になった。冊子をもったら、いちだんと嬉しかった」「こんなことまで喋っていたん



病院敷地内禁煙をお願いします

病院には気管支ぜんそく、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、妊婦、赤ちゃんを抱いたお母さんも通っています。

～あなたならきっとできる～

★禁煙開始方法

思い立ったら吉日、いまから禁煙！

市立砺波総合病院 禁煙対策委員会

「聞き書き」に関するお尋ねがありましたら、気軽ににお問合せください。
 市立砺波総合病院看護部
 聞き書き担当

だ…と気恥ずかしくもなったが、私の口調で書いてもらっていると、その時の情景がよみがえり、懐かしさを感じた。「良い思い出になる機会をくれてありがとう」「子供に妻（母）の苦勞を知ってもらいたかった、心残りが少し減りました」と、様々なご意見をいただいています。

これからも「聞き書き」活動を通して、患者さんのお話を綴り、患者さんに寄り添う看護を行いたいと考えています。